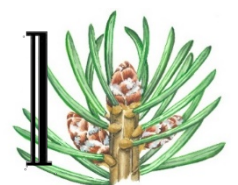


もり 北の森林 国有林

写真：知床峠から見た朝日

今月のトピック

- ・北海道森林管理局長 新年のご挨拶
- ・アイヌ文化振興への貢献



2021
No. 61



国民の森林・国有林

林野庁 北海道森林管理局



新年のご挨拶

北海道森林管理局長 原田 隆行



令和3年の新春を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年は、熊本県を中心にした九州地方や中部地方において、豪雨による大規模な河川の氾濫や山地の崩壊が発生しました。被災された皆様には心よりお見舞い申し上げます。

また、新型コロナウイルス感染症の拡大は、木材需要や流通へも大きな影響をもたらしました。北海道森林管理局としましては、木材業界等の関係者の方々のご意見を踏まえ、地域の実情に応じた国有林材の供給調整などに取り組んでおり、道内関係者の皆様と力を合わせてコロナ禍の厳しい状況を克服していきたいと考えています。

さて、森林は木材等の供給のみならず、国土の保全、水源のかん養などの多面的機能の発揮によって私達の生活や経済に大きく貢献し

ており、適切に保全・整備・利用することが必要です。

とりわけ、トドマツやカラマツなどの人工林が今や利用期を迎えており、どのよう

に伐採・利用し、また、伐採後はどのような森に再生するかを判断することが重要となっております。

このため、北海道森林管理局としては、利用期の人工林を一律に伐採せずに、伐採の時期を分散させ、一部は長伐期化するとともに、天然の広葉樹が混じる人工林については、より長い視点で天然力を活用しつつ樹木を育成し、かつての北海道にあったような針葉樹と広葉樹が混交した森林として整備してまいります。

これらの取組にあたっては、長伐期の人工林から生産される大径材の需要を開発し価値を高める必要があるため、大径かつ良質の原木を選別して安定的に供給する取組を行い、大径材の

利用推進につなげていきます。

また、伐採後の再造林にあたっては、植栽や下刈りなどのコスト縮減が課題です。このため、大型機械を用いた下刈りの実証試験や、緩効性肥料を活用したコンテナ苗の利用拡大等により造林の低コスト化に取り組んでいます。

一方、新たな取組にはリスクが伴うことから、国有林がまず先頭となって取り組み、その成果を民有林へ還元していくなど、地域の林業・木材産業の発展に貢献してまいります。

このような取組を通じて、「多様な樹種や多様な大きさの樹木を育む森林を整備し、そこから様々な木材を安定的に一定量供給できるようにしていく」という国有林にしかできない国有林ならではの森林づくりに取り組めます。

更に、近年多発している豪雨等の自然災害に対しては、迅速な復旧はもとより必要な治山施設の点検・整備等を計画的に行い、引き続き防災・減災・国土強靱化に積極的に取り組んでまいります。

北海道森林管理局としては、これらの取組については「見える化」をキーワードに地域の皆様と連携しつつ事業を着実に進めて行きたいと考えています。

本年も一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、北海道の森林・林業・木材産業の発展と、皆様の益々のご健勝とご多幸を祈念申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。



アイヌ文化振興への貢献

昨年の7月、白老町に「ウボボイ（民族共生象徴空間）」がアイヌ文化の復興・創造・発展のための拠点となるナシヨナルセンターとしてオープンし、道内各地でアイヌ文化振興の機運が高まっています。

北海道森林管理局でも、大切なアイヌ文化を、守り伝える取組を行っているので紹介します。

ポロト自然休養林での森林づくり

北海道森林管理局では、ウボボイに隣接するポロト自然休養林を、アイヌ文化を象徴する森林として育てていくために、この森の4分の1を占めるトドマツ人工林（約80ヘクタール）を、北海道の森林の元来の姿である針広混交林や広葉樹林に誘導する取組に着手しました。

今年度は、9月にその前段として、ポロト自然休養林内において、アイヌ文化にかかわる樹木であるオヒヨウニレ20本、アオダモ15本、エンジュ10本の3種類45本の先

行植栽を実施しました。



ポロト自然休養林での植樹

今後は、白老町との連携も進めながら、トドマツ人工林を現在、北海道森林管理局が進めている「天然力を活用した多様な森林づくり」の手法により、200年〜300年生の針広混交林や広葉樹林に誘導し、アイヌ文化に密接に関わる森林産物の持続的供給と多様な野生生物の生息の場とすることを目指しています。

アイヌ共用林野

アイヌ共用林野は、「アイヌの人々の誇りが尊重される社会を実現するための施策の推進に関する法律（平成31年4月26日法律第16号）」に基づき、国有林野においてアイヌの儀式の実施その他アイ

又文化の振興等に利用するため林産物を国有林野から採取できるとするものです。



アイヌ共用林野の契約締結式

昨年7月に、日高南部森林管理署において、新ひだか町・日高南部森林管理署・新ひだかアイヌ協会・三石アイヌ協会が一同に会し、「アイヌ共用林野契約」を締結しました。

今後も、他署において共用林野の設定に向けて、資源調査等を行う市町村等の技術支援を行いながら、各地域と共に共用林野の設定に取り組めます。

「21世紀・アイヌ文化伝承の森再生計画」

北海道森林管理局は、平取町、平取アイヌ協会と、平成25年にアイヌの

人々が利用してきた北海道古来の森林の再生などを理念とした「21世紀・アイヌ文化伝承の森再生計画（コタンコロカムイ（シマフクロウ）の森づくり推進のための協定）」を結び、21世紀・アイヌ文化伝承の森プロジェクトとして、平取町内の国有林を活用して、オヒヨウニレの植樹やシマフクロウの巣箱の設置等を実施してきました。



「21世紀・アイヌ文化伝承の森再生計画」の協定書

昨年、この協定の更新にあたり、3者で意見交換を行い、今までの取組みの拡充を図りながら、アイヌ文化伝承に必要な場としての豊かな森林の再生、コタンコロカムイが棲める環境の整備など取組を推進することに、ついて確認しました。

地域課題の解決に向けた取組

日高地域の林業活性化に向けた取組

日高北部森林管理署

はじめに

日高北部森林管理署は、日高振興局管内の日高町と平取町の2町を管轄しています。

管内の民有林は4万1千ヘクタールあり、その内1万4千ヘクタールが人工林となっています。

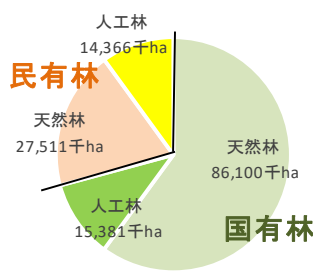
人工林では、急峻な地形が多いことや、風倒被害への懸念などから、切り捨て間伐を主体に実施されてきていました。

地域の課題

近年、道内では地球温暖化対策に資する木質バイオマス資源の活用が高まっています。

平取町でも、木質バイオマス産業都市構想が打ち出され、未木枝条や端材などの「林地未利用材」の需要が

日高町・平取町の森林面積



見込まれるようになっていきます。

このようなことから、これまでの切り捨て間伐から利用間伐の導入に向けた検討が必要となり、また、作業コストを踏まえ列状間伐を取り入れていくことが地域の課題となっています。

列状間伐の推進

当署では、平成29年から日高振興局森林室平取事務所、沙流川森林組合と、列状間伐の普及などを目的とした連携を進めています。

具体的には、間伐予定箇所について「森林の健康診断書」を作成し、列状間伐を森林所有者に提案してきました。

この診断書は、林分状況や将来の施業方針をまとめ



3D画像と森林の健康診断書

たものです。作成に当たっては、林相や森林蓄積を把握する現地調査と併せて、ドローンによる現況把握を行っています。

これらのデータを基に、わかりやすい資料を作成し戸別訪問し、列状間伐の説明を含めた施業提案を行ってきました。



列状間伐見学会

また、森林所有者が抱いている列状間伐への懸念を少しでも払拭できるように、日高町役場も招いて列状間伐見学会を国有林で行いました。

これらの取組から、森林所有者5名の賛同が得られ、令和4年までの継続した搬出(列状)間伐の計画立案に至ったところです。

また、林地未利用材の活用については、国有林からの出材情報を共有することにより、民有林から出る林

地未利用材と一体的な搬出に繋げることができたところです。

今後の取組

列状間伐の普及は、まだ道半ばです。

日高振興局森林室平取事務所、沙流川森林組合と連携した「森林の健康診断書」の作成をはじめとした取組を継続するとともに、再造林や下刈コスト削減などの地域の課題解決に向けて粘り強く取り組んでいきたいと思えます。



民有林における列状間伐箇所と林地未利用材

こんにちは 森林官です!

胆振東部森林管理署
白老森林事務所
首席森林官 青柳 俊樹



ポロト湖から見た建設中のウボイ

『イランカラプテ』

白老森林事務所は白老町に所在し、ポロト自然休養林を含む9,698ヘクタールを管轄しています。

当森林事務所に着任して間もなく「白老地区林野火災予防消防対策会議」に出席した際、白老町長から「本日出席された皆様、イランカラプテ（こんにちは）」と挨拶され、会場からも「イ

ランカラプテ」と声が上がりました。初めて聞くその言葉を耳にして私は白老町に来たんだと実感したことを思い出します。

当時、白老町ではウボイ（民族共生象徴空間）が平成32年4月24日の開業を目指して建設が進められており、署としても隣接するポロト自然休養林の利活用を重点課題として取組を進める中、開業を待ち望んでおりましたが、コロナ禍の影響により二度の開業延期を経て令和2年7月12日に開業となり、多くの方が訪れ始めています。

『エゾシカについて思うこと』

国有林に勤務して40年になります。これまで現場でのエゾシカ目撃はわずか2頭でしたが、当森林事務所に赴任した際、道路の向かい側の敷地に5頭を一度に目撃し驚きました。しかし、この地域では特に珍しくもなく、今年も6頭が姿を見せました。

ポロト休養林については、アイヌ文化を象徴するアツ



森林事務所の敷地内にて

トウシンの原料となるオヒョウニシなどの植栽を白老町と連携して取り組むこととしておりますが、今年度、当署で先行して植栽を行いました。

この現場では、かなりの頻度でシカを目撃するため、植栽木1本1本にシカ防護チューブを取り付け、エゾシカ侵入防止柵を設置しました。

餌の少ない冬期間はエゾシカの食害を受けやすいため、エゾシカからの食害防止対策が必要です。

樹木等の森林資源がエゾシカにより被害を受けてし

まっ環境となっていることは残念でなりません。



食害保護チューブと侵入防止柵

『終わりに』

近年、一般の入林者が増加しており、当森林事務所管内には沢登りをされる方も多く、驚きます。

このように沢山の方々に関心を持っていただけることを心強く思うところです。

国有林勤務も残り少なくなりましたが、日々充実しており、今後も森林を地域のために活かせるよう、微力ながら貢献していきたいと思っております。

センター通信

知床森林生態系保全センター

林野庁には「グリーン・サポート・スタッフ」(GSS)という職員がいることを存じでしょうか。国有林内で巡視や入山者への指導・啓発、簡易な施設補修などを行う非常勤の職員です。

知床森林生態系保全センターでは、6月から11月末まで3名のGSSが勤務しています。GSSの生の声をお届けすべく、インタビューしましたので紹介します。

【GSS紹介】



小林
神奈川県出身
北海道移住歴
16年目



後藤
神奈川県出身
北海道移住歴
11年目



櫻井
東京都出身
北海道移住歴
35年目

今年度の活動を振り返ってみていかがでしたか。例年と変わったことはありませんか。

小林：今年は雪が少なかつたせいか、ササが例年以上に茂って歩道の草刈りがとても大変でした。

後藤：例年なら3〜4日で終わるところが今年は8日〜10日かかりました。

今までで印象に残った業務を教えてください。

櫻井：知床連山の縦走巡視かな。ハードだけど楽しかったです。

後藤：そうでした。泊まりがけの仕事が印象的です。あとは歩道の崩れたところや壊れた橋を直すのもおもしろかったです。

知床ならでの課題は何だと思えますか。特に巡視中に感じることを教えてください。

後藤：知床といえば、クマ問題が大きな課題です。カメラマンや観光客はクマを見たいと思って知床に来ている人が多いので、完全に自然のクマの生態を

見せられる方法を考えるべきだと思います。

櫻井：ゴミのポイ捨て問題もそうですね。ポイ捨てされた生ゴミをクマが食べて、味を覚えてしまうと、その後は捕殺対象になってしまいます。ただ、ポイ捨てをする観光客が一方的に悪いというわけではなく、受け入れ側もゴミ箱など整備する必要があると思います。

小林：本州の高速道路のサービスエリアでゴミ箱が10mぐらい並んでいるのを見て、細かく分類されて良いなあと思ったことがあります。そのようなゴミ箱が知床にもあったらポイ捨ても減るのかもしれないと思います。

櫻井：利用者側、受け入れ側の両方が考えなくてはいけない問題ですね。

登山などで国有林に入林される方にメッセージを。

後藤：日本中の国有林を幅広く見てほしいです。有名などころだけでなく、マイナーなところでも、きれいなところはたくさんあります。ピークの時期だけでなく、あえて時期をずらして行くと新しい発見もあるのです。一箇所に集中せず、分散して楽しんでほしいです。

小林：山に入るときは無理をせず、時間に余裕を持ってほしいです。それから、ゴミは持って帰ってほしいです。

櫻井：大学生のときに先生から「ミスナラはなくなっていく」と聞きました。全国的にはそうなのかもしれませんが、知床にはミスナラの巨木が多く残っていて、すごいと思います。知床に来た人には見てほしいなと思います。



北海道森林管理局HPIにてGSS活動日誌を発信しています





各地からの便り



「各地からの便り」の詳細は

森もりスクエア

検索

学童保育所でリース作り



【駒ヶ岳・大沼森林ふれあい推進センター】

12月12日（土）に函館市末広町の学童保育所『ひのてん』において、リースやクリスマスツリーの木工製作会が開催されました。

『ひのてん』さんから、森林教室の依頼がありましたが、3密の回避やソーシャルディスタンスがとれないため、一度は難しいと伝えたものの、担当者から「ぜひ松ぼっくりなどを使ってリースとクリスマスツリーを作らせてほしい」との声があったため、当センターでも何とか協力できないかと検討した結果、松ぼっくり、小枝、コースターなどの材料提供とグルーガン等の道具の貸出を提案し、開催が実現しました。

当日は、小学生22人が参加し、『ひのてん』さんで準備したキラキラしたヒモやビーズ、綿なども使って、世界で一つだけのリースやクリスマスツリーをどんどん作っていました。

次回は是非、青空の下で、樹木や葉に触れての森林教室を行いたいと思います。

札幌市立平岸高等学校で出前授業



【北海道森林管理局】

12月8日（火）北海道森林管理局企画課の平田係長が、札幌市立平岸高等学校のデザインアートコース1年生を対象に出前授業を開催しました。平田係長はイラスト漫画を作成して森林・林業・木材産業を普及啓発する業務を行っており、今回の出前授業では北海道の森林・林業の話の他、イラストを使った情報発信の仕事内容や意義についても講義しました。また森林官として国有林の現場を実際に歩いた経験を漫画にしたことや、専門家にも何度もダメ出しを受けながら少しずつイラストの精度を上げていった話をした際には、デザインアートコースの学生らしく画材や作業時間についての質問がありました。このような講義を通して、北海道の森林の未来を担うみなさんに森林・林業を身近に感じてもらい、応援団になってもらえるよう、今後も活動を続けたいと思います。

名寄南小学校総合的な学習「名寄の自然」



【上川北部森林管理署】

12月3日（木）、当森林管理署と「遊々の森」協定を締結している名寄市立名寄南小学校において、当署と連携して実施した総合的な学習時間「名寄の自然」に関する発表会が開催され、当署からは2名の職員が参加しました。

この発表会の目的は、名寄の自然について理解を深めるとともに、各班が設定した課題について調べ、発表することで思考力や表現力を高め、また郷土愛などを養うものです。

発表では、各班それぞれに工夫を凝らし、面白い演出など大人でも緊張するステージ上でプレゼンテーションがしっかりと行なわれました。

次年度も森林教室を実施する予定であり、児童たちに自然に親しんでもらい、森林について興味を持ってもらえる内容となるよう、これからも創意工夫を続けていきたいと考えています。

北の森づくり専門学院の地域見学実習



【日高北部森林管理署】

11月20日（金）と27日（金）の両日に分かれて、北海道立北の森づくり専門学院の学生33名が、地域見学実習の一環として当署を訪れました。最初に国有林の管理経営にあたっての目的や森林区分、日高山脈をはじめとした地域の特色、「アイヌ文化の伝承の森」に必要な広葉樹の育成など当署の取組について説明した後、日高町千呂露地区で施工中の治山工事現場を見学しました。

現地では、治山事業の重要性や当地区における治山工事の経緯、治山ダムの構造などについての説明を熱心に聞いていました。

特に、治山ダムの見学箇所では、「コンクリートの打設は、どのように行われるのか」などの施工に関する質問などもあり、関心の高さがうかがわれる、活発な見学実習となりました。

北海道警察と合同作成による 山岳遭難防止ポスターの活用について

北海道森林管理局と北海道警察は、山岳遭難の防止及び森林における活動の安全を広く呼びかけるため、合同で広報啓発用ポスターを作成しました。

ポスターのイラストは、北海道森林管理局職員で漫画制作等の活動を行っている平田 美紗子(ひらた みさこ) 事業企画係長が制作し、北海道警察山岳遭難救助隊のイメージキャラクターと



山岳遭難防止ポスター横版



山岳遭難防止ポスター縦版

- 冬山を安全に楽しむために
- ・無理のない計画と「登山計画書」の提出
 - ・通信機器と予備バッテリーの携行
 - ・狩猟期間中につき十分な注意
- をお願いします。

して新たに設定した「山岳守」さんがく まるごと、北海道森林管理局のイメージキャラクター「林リン子」(はやし りんこ)及び北海道警察マスコットキャラクターの「ほくとくん」が安全な登山を呼びかけています。今後は関係機関を通じて、広くポスターを掲示し、山岳遭難の防止及び森林にお



山岳守くんと林リン子ちゃん

る活動の安全を広く呼びかけていきます。

もり
 広報 「北の森林 国有林」 1月号
 発行 北海道森林管理局
 編集 総務企画部 企画課
 〒064-8537 札幌市中央区宮の森
 3条7丁目70番
 IP電話 050-3160-6300
 電話 011-622-5213
 FAX 011-622-5194

<https://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/>

今月の木 「エゾマツ」

エゾマツは高さ40mにもなる北海道の森の屋根を支える針葉樹で、「北海道の木」に選ばれています。

詳しくは、ホームページの「北海道の木のえほん」をご覧ください。

エゾマツの冬芽のイラストを表紙の月数字の横に載せました。

